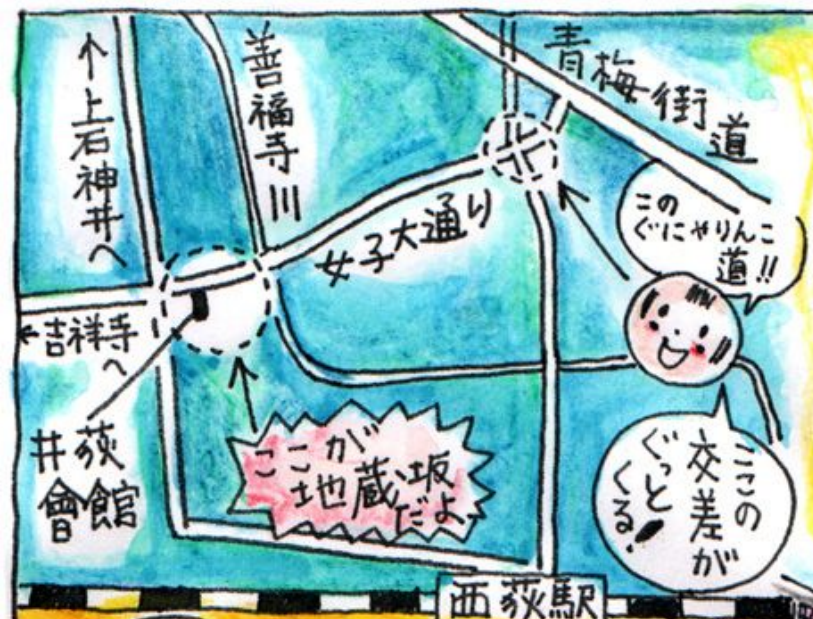
西荻ぐらし ときどき信州

こけしじろう通信 その3

春です。芽吹きの季節ですね。信州も一歩ずつですが遅い春に向かって進んでいます。

今回は「くだもの」の便りをちょっぴりお休みして、手しごと市でおなじみ井荻會館の前をぐいっと下る「地蔵坂」についてレポートします。



杉並55万人の「坂」好きの皆さまおまたせしました。

絵と文・さくらいようへい

かってここに立っていた馬頭観音は杉並区今川の観泉寺(かんせんじ)に場所をかえて今も当時の雰囲気を偲ばせてくれます。興味ぶかいのは、側面に彫られた「西・ふちう(府中)」、「東・江戸」の文字!

そして!

女子大が出来る前から、この道が存在して、観音さまを道標に旅人や村人が往来していたんですね。

へえー! とっても古い道だったんだね。

さらに!

坂の上の交差点、また台地の先端部から旧石器時代のものと思われる、石器類が発見されています。旧石器時代の古えから、人々はこのあたりに居をかまえ、まさに手しごとで暮らしていたんでしょうね。井荻會館で開かれる毎月の手しごと市は古代からの遺伝子そのものですね。

そもそも「地蔵坂」ってそういう名前から想像するに? おじぞうさまがいたのかな?

かつては坂の途中に地蔵堂があったようです。また庚申塔や馬頭観音が祀られていたとのこと。

江戸時代中期以降には地蔵坂と呼ばれていた可能性が高いとのことです。(案内板より)